

滝沢村環境パートナーシップ プロジェクト 『 ホタル探検隊 』
ホタルを楽しみながら水辺の自然を考える



2008年で村内のホタルを調査し保護増殖をめざして3年目になる。調査にはさらにサクラソウやカワシンジュガイも加わりホタルを中心に水辺の自然を多角的に観察している。

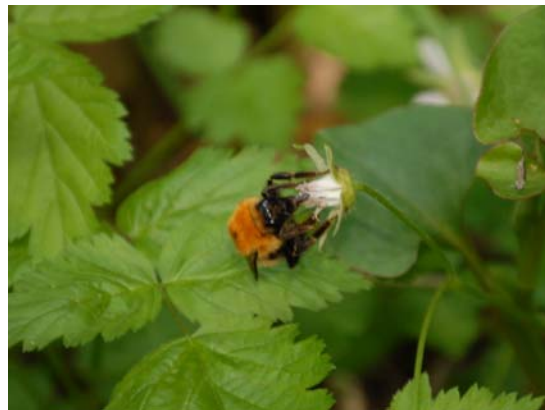
調査地域は木賊川、諸葛川、市兵衛川、巢子川周辺

5月8日(木) 巢子川サクラソウ調査

ホタルの生息地である巢子川下流のサクラソウ調査を行った。岩手牧場の許可をいただき、国道4号から川沿い200m程度の範囲を観察できた。規模は小さいが花茎数にして50株程度を確認した。さらにトラマルハナバチの女王蜂を10匹ほど見つけ、サクラソウの花に吸蜜の跡を確認、木イチゴの花から吸蜜する様子も見ることができた。河川は少し臭くゴミが多く散乱していた。カワシンジュガイは見つけることができなかった。



サクラソウを発見



トラマルハナバチの吸蜜

5月18日(日) 第4回野生サクラ草サミットに参加

滝沢村のサクラソウ自生地を守ろうと第4回 野生サクラ草サミット(野生サクラ草ネットワーク主催)が5月18日(日)に開催されスタッフとして協力して参加した。

盛岡農業高校と柳村純一さんの湿地を会場に交流会、講演会、観察会が開催され約150人の参加があった。

滝沢村役場と教育委員会が後援となり、ホタル探検隊も積極的に運営に加わった。そして村民が多く参加し、サクラソウとトラマル



ハナバチの巧みな関係や水辺の環境の管理方法などを学んだ。

村内の川沿いにはサクラソウ自生地が散在しその多くはホタルの生息地と重なっている。ホタルを守ることはそれ以外の生物たちを守ることになる。



盛岡農業高校生物工学科の発表



サクラソウ観察会

7月4日(金)～6日(日) ホタル観察会

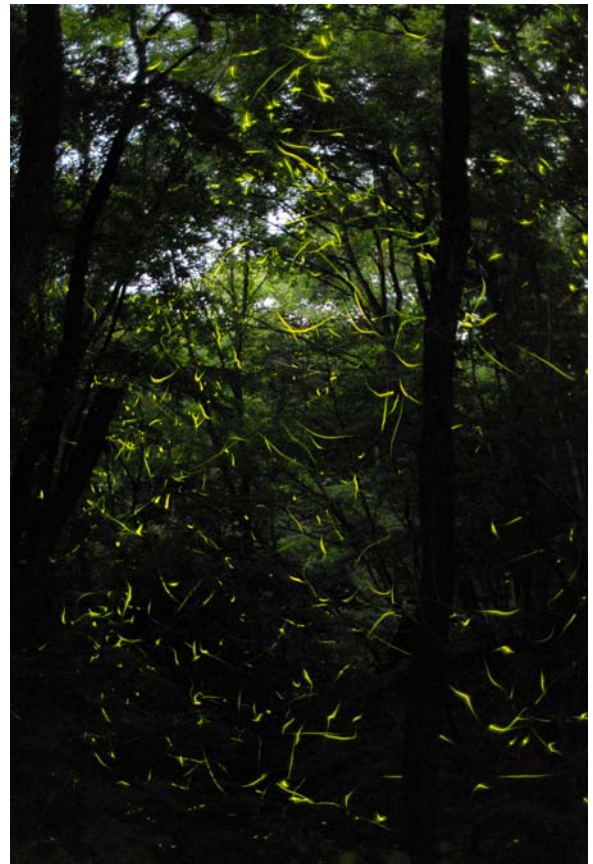
ホタル探検隊主催のホタル観察会は、今年は3日間開催した。柳村純一さんの敷地内の沢を会場に、延べ約250人の参加者があった。

7月4日(金)は、ホタル探検隊への参加を希望する方々を、5日(土)と6日(日)は一般村民を対象とした。

昨年よりも発生時期が遅れたが森の中でゲンジボタルならではの見事な飛翔を観察できた。

大きな広葉樹に囲まれた幅1mほどの小川は、春にはカタクリやサクラソウが岸辺に咲きそろってお花畑になる所でもある。地主の柳村さんが自然を守りながら草刈や倒木の片付け作業をしてきたことで、このようなホタルの楽園が残されてきたのでしょう。壊すのは簡単、しかし残すのは難しい。

また、ゲンジボタルの餌となるカワニナを探した時に、大きさ5mmほどの小さな白いマメシジミをこの川で見つけました。カワシンジュガイと同じく氷河期からの遺存種と言われ、まだ詳しい生態は分かっていない珍しい貝類らしい。



後日、地元の川前保育園親子会と滝沢駅前商工会もそれぞれこの川で観察会を行い、ホタル探検隊員が案内を担当してホタルの大切さや自然環境の素晴らしさを伝えました。

川前地区では、柳沢地区と共にホタルに対する関心が高まっています。観察地の管理をしてきた柳村さんやホタル探検隊員へのお礼や励ましの言葉をいただきました。

またホタル探検隊への新たな参加希望者もあり、実り多い観察会となりました。『ホタルの村！滝沢村』を目指し活動をこれからも進めたい。

10月には、ホタルのすむ環境調査のひとつとしてカワシンジュガイ調査を今年度も行う予定です。

右の写真は、市兵衛川の昨年確認したカワシンジュガイです。カワシンジュガイは捕獲されるより、河川工事や水質悪化などの環境の変化により減少しています。村内では残り少なくカワシンジュガイをホタルと共に守っていききたいものです。



手にひらに乗せたマメジミ

